

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101000		
法人名	医療法人 奏博会 村島医院		
事業所名	グループホーム延寿の里1		
所在地	福島県福島市飯坂町字東堀切8		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年10月8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

村島医院と連携しており医療に関して随時相談でき、安心を提供できている。  
 アットホームな雰囲気をお大切にしております、入居者様の生活スタイルに合わせ、ゆったりとした過ごし方を提供してしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年12月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会に加入し総会には常に管理者か法人事務長が出席している。また、町内会長の口添えで大型ホテルと有事の際の協力体制の締結をしている。事業所前は神社の例大祭(けんか祭り)の巡行路になっており、巡行時利用者の前でパフォーマンスを見せてくれる等、祭りは利用者の楽しみの一つになっている。事業所の夏祭りでは近所の子供も達が自然と集まり、地域との交流がある。  
 2. 利用者の希望に沿って、散歩や近隣の名勝旧邸宅等へ日々散歩に出かけている。また、季節に応じ花見や不動尊、ダム公園等へドライブに出かけ利用者の気分転換や楽しみに繋げている。  
 3. 食事は3食とも職員の手作りで提供している。食材は職員が購入単価を考慮して安価な店まで買出しに出かけ、米は近くの農家と契約し購入している。誕生日に手作りケーキを提供し、夏には流しそうめん等の工夫をしている。食事は常に利用者、職員が同じテーブルを囲み、食事を楽しむ取り組みをしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示することにより共有を図っている。	理念は、管理者が理想とする事業所の姿、思いを理念として策定し、事務所の壁、ドアに掲示してある。しかし、職員との話し合いや振り返りの時間を持っていない。	理念は、常に立ち戻る原点を言語化したものなので、職員間で共有し実践に繋げる為、確認し振り返る時間を持つことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者、その家族の地域行事や地域での用事に合わせた外出ができています。事業所としても地域の一員として地域の行事等に参加し交流を図っている。	町内会長の口添えで大型ホテルと有事の際の協力体制の締結をしている。地域の方や利用者の友人知人が日常的に立ち寄り、事業所の夏祭りには近所の子供が遊びにくるなど交流がある。また、秋の祭りの神輿の巡行路なので利用者は楽しく見物をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け認知症の理解、支援方法について貢献することはできていないかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催できている。メンバーには事業所や地域の課題について共有できている。地域の行事等の情報を得、サービス向上に活かしている。	定期的に集合開催をしている。事業所の取り組みの様子を報告し、地域包括職員から積極的な意見が出されている。しかし、委員の出席率が良くない状況である。	出席しやすい委員の見直しをすることが望まれる。また、取り組み状況の報告では、事故報告のみでなくヒヤリハット等の報告も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡は必要時に図れている。事故などの報告をさせてもらい、対応、改善策など確認頂いている。	市へは介護保険関係や事故報告、感染症発症時の報告時に出向く他、電話やメールで相談等やり取りを行い、協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会で勉強会を実施している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。前年度においても身体拘束の事例は発生していない。	委員会は指針に基づいて定期的に開催し、研修は年2回虐待防止と一体的に行っている。また、新職員には入職時に身体拘束ゼロへの手引きを渡している。玄関は、内からは自由に開けられるが防犯防止のため外からは開けられない仕組みになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いなどから職員には徹底している。身体拘束と同様虐待について勉強会を行っている。	研修は年2回、虐待防止や身体拘束適正化について職員が講師となり、勤務体制に合わせ数回行っている。受講後「施設従事者のための自己チェックリスト」を行い再確認し虐待防止の徹底に取り組んでいる。	委員会の記録の整備及び指針の虐待防止担当者の記載の他、虐待を受けたと思われる利用者の発見時の対応について、職員が分かり易くフローチャートで示すことが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてマニュアル化はされているが、職員が学ぶ機会は持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては本人・家族が納得できるように十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本来ならば面会時や運営推進会議等を通して意見吸い上げが必要であったが、面会等にも制限があり意見を反映できる機会は乏しかった。	毎日利用者の希望に沿って塗り絵やドライブ等の支援をしている。買い物外出は家族協力を得ている。家族から面会希望があり、面会室で30分の時間制限を設けているが、飲食や時間延長等自由にしてもらい配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営についてはGH経験のある職員から意見や提案を受けることが多々あり反映している。また、職員会議等を通して職員からの意見を積極的に取り入れている。	事業所では自由に話せる雰囲気がある。現在、人員不足のため職員会議は2か月に1回短時間で行っているが、申し送りノートを活用し情報の共有を図り、職員からの意見はその都度話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、人間関係などには注力したが、向上心をもてる職場環境については課題となっている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育てる取り組みは乏しい。今年度も課題となっているが、オンラインでの研修機会の確保を取り始めたが、職員のITリテラシーにも考慮が必要で課題となっている。	事業所では、資格取得に向けて研修費用を負担し職員の育成に取り組んでいる。また、民間のオンライン動画研修を導入し働きながら学べる環境を整備するが、ITへの苦手意識があり思うように効果が望めず、課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の意見や業務内容は参考にさせてもらった。しかし、継続したネットワーク作り、勉強会の開催できる機会を保てなかった。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規事業時には入居者の方と十分にコミュニケーションを図ることができ、困りごとを確認することが出来ていた。現在も新入居者様が不安にならないよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に家族に十分に話を聞き、要望等はききいれるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援を見極め提供できるように努めてきた。GH以外での生活支援(外出支援、買い物支援)等利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係性は目指しているものの、入居者様よりみて共にする関係性を築けているかは不明である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様家族との絆は大切にしている。家族に本人の状況や生活の様子を写真入りの手紙等でお知らせしている。また、家族からの知らせも本人に伝え、絆の継続を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の余波がある状況ではあるが、面会等感染に注意して行ってもらっている。関係性が途切れない様、今後も支援していきたい。	事業所へは、度々家族・友人・知人が面会に訪れている。また、地域の名勝地のダムや不動尊、バラ園等へのドライブや自宅の様子を見に立ち寄る等、馴染みの人・場所と途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性にも配慮している。同テーブル等にて調整し話しやすい環境を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の情報等を家族に発信し、随時職員でも連絡を取ることで繋がりが途切れないよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時・プラン作成時など希望・要望の把握に努めている。	入居時に家族から本人の人となりや聞いて、日々の関わりの中から希望や意向の把握に努めている。困難な場合は日頃の様子や家族の意見を参考に本人の意向に沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居前後に確認し、好みの生活スタイルを把握するように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後、本人のアセスメントを十分にとっている。毎月のモニタリング、会議等にて一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れることはできたが、他関係者から意見を取り入れることは乏しかった。 チームとしての意見やアイデアについて話し合いはあったがプランに反映できていない。	入居前にケアマネが面会し、本人・家族の意向に沿った介護計画を暫定1か月分を作成しその後6か月毎に見直している。モニタリングは居室担当者が毎月行い、ケアマネが3か月毎に実施し家族から面会時や電話で意向を伺い担当者会議で話し合っている。介護計画は面会時に説明・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はできている。日々の記録を基にカンファレンスで情報を共有できている。ケアの工夫など個別検討できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援ができるように勉強会等にて取り組んではいるが、コロナの影響もあり制限がある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染症の影響により積極的な地域資源の活用できていない。引き続き運営推進会議などで情報を得たいと考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携は十分に図れている。受診とは別にもすぐ健康面などの相談ができる体制ができています。	利用者・家族の希望する医療機関を受診している。なじみの医療機関受診の際は、職員記載の情報メモを基に家族対応で通院している。殆どの利用者は隣接協力病院を選び職員付き添いで受診している。受診結果は電話・口頭・お便り等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHでも看護師は配置しており、主治医を通し必要な医療の提供ができています。また、併設している医院の看護師との連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は管理者・介護支援専門員が病院と連携しており、退院の際も情報も共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては指針を設けており、本人・家族に説明できる体制を整えている。主治医を中心として方針を説明する体制ができています。	入居時に事業所の重度化・看取り対応指針を説明し同意を得ている。終末期の対応は、看取り等事前確認及び医療連携体制同意書で利用者・家族の承諾をいただき、看取りは医師・家族・事業所が話し合い、家族等の終末期意向確認承諾のもと実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については連絡体制が整備されており、管理者・介護支援専門員・ユニットリーダーより適切な指示を提供できるよう体制ができています。しかし、職員の入れ替り等も含まり一人一人の訓練ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行っている。運営推進会議を通し避難場所の提供を頂くなど、地域との協力体制もできている。	消防署に届出のうえ火災想定避難訓練(昼間)を実施している。地震想定訓練は2月頃を計画している。管理者自らが消防団員で、事業所としては災害等防災協定を大型ホテルと締結し相互協力関係を築いている。非常時災害に備えた備蓄品も準備している。	火災・地震・風水害など、あらゆる災害を想定し、特に職員の少ない夜間帯想定避難訓練を数多く実施し、職員が利用者を避難誘導できる実体験を積むことが望まれる。また、全職員に消防計画及び消火設備機器等の取り扱いの周知が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや、言葉使いには十分気を付けている。 人格を尊重した対応を心掛けている。	接遇研修や身体拘束廃止、虐待防止等研修を実施し、利用者の日常生活の中で、職員のケア場面の言葉遣いや不適切な対応等を見逃さず、互いに言い合えるよう努めている。書類は鍵付書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望にがあれば添えるように努力している。自己決定は何度も本人に確認することで行えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを大切にしたいが、知らず知らず職員ペースになっていることがある。 希望に添うように支援しているが、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにも気を付けていきたいと考えている。男性職員に教育していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事についてはできる入居者様にはお願いしており、できた食事については職員も同テーブルと一緒に食事をとることを常時化している。	職員が献立作成と食材購入を行っている。3食手づくりの食事を提供し、利用者と職員と一緒に食事をしている。誕生日には手づくりケーキなどでお祝っている。利用者は食材の皮むき、食器洗い、テーブル拭き等を手伝っている。米は契約農家から購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量については、定時・随時で提供できている。一人ひとりに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを徹底している。口腔内のトラブルにも訪問歯科にて対応できるよう整備している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について失敗やおむつ軽減にいたる支援に至るには、管理等含め職員の技術力向上が必要であると感じている。利用者によっては自立した支援を行えている。	自立排泄が出来る利用者が多く見守りに対応している。入院でオムツを使用していたが退院後トレーニングで改善した方もいる。また、オムツの軽減にも気を配りパッド等で効率化と快適性にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難とならないよう消化のよい食事提供を心掛けている。水分もとりやすよう毎朝食時、手作りゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当該施設の特徴であった温泉水が枯渇してしまったが、入浴自体は通常湯で楽しんでもらっている。個々のタイミングに合わせる事が困難であった。	入浴サイクルで入浴順を決めている。浴室は一般浴とリフト浴で対応している。入浴を好まない方には時間を見はかり声をかけ、状況によっては日を改めて入浴できるよう取り組んでいる。楽しい入浴となるようユズ湯や利用者の昔話に花を咲かせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう就寝時にはパジャマに着替えもらい、習慣づけになるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の受診に職員が同行するように努めており治療方針、内服についても理解を深めている。職員には薬の目的・副作用、用法用量の厳守について勉強会を通して指導していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣向品や楽しみの提供については、映画会やカラオケ、その他レクリエーション等を提供しているが、個々の要望に合った気分転換になれているかは不明。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って施設周辺の散歩、買い物等に出かけられるよう支援している。家族にも協力を得、外出してもらっている(コロナの影響により現在はできていない)	事業所周辺の散歩や近隣にある名勝の旧邸宅等への散歩を通して住民の方と挨拶を交わしている。また、近くの公園にも出かけている。家族との買い物や墓参り、毎月家族と外泊や旅行に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じてお金を所持してもらうことはある(家族にも同意を得る)使用するようなことはなかったが、要望があれば応じる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が主ではあるが、要望があれば応じる。手紙も家族からが多いが、本人に手渡しており、本人から要望あれば手紙等のやり取りの支援には応じる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、湿度調整、照明などには気を配っている。季節感については掲示物でお知らせすることが主となっている。	ホールにはテーブルと椅子を配置している。壁面には行事の写真や季節に応じた塗り絵、絵画を掲示している。また、看護師・職員とのレクリエーション体操やボランティアによる音楽療法等の活動の場となっている。温度・湿度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では食事する席はある程度決めている(絶対ではなく、入居者が迷わないよう)が基本的に自由に、好きな方と使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	完全個室であり、部屋で本人と家族が面会しプライベートを守りながら会話を楽しむ事ができている。居室には好きな家具を持ち込んでもらいなじみある空間を大切にしている。	居室にはベッド・エアコン・チェスト等が備品として準備されており、利用者の持ち込みも自由としている。居室のレイアウトは利用者・家族の希望で配置し、テレビやタンス、位牌等を持参し、自作の折鶴や家族写真を飾り自分らしい部屋となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しできることは自身で行ってもらえるよう促している。		